

ヘマトキシリン・エオジン染色液の自家調整から市販品への移行検討

◎斎藤 彰¹⁾、小林 徳子¹⁾、谷川 豊¹⁾、豊島 徳子¹⁾、前田 清隆¹⁾
名古屋鉄道健康保険組合名鉄病院¹⁾

【はじめに】ヘマトキシリン・エオジン染色（以下、HE 染色とする）は病理診断における基本的な染色法であるが、染色液の種類や染色工程は統一されておらず、色調には病理医の好みが反映されるため、染め上がりの標本は施設ごとに様々なのが現状である。またヘマトキシリン液（以下、Hx とする）とエオジン液（以下、Eo とする）の経時的変化により染色性は日々変化するため、安定した染色結果を得続けるためには適切な精度管理が必要となる。

【背景および目的】当院ではこれまで Hx および Eo の自家調整を行ってきたが、環境の変化に伴い色調に若干の違いが見られるため精度管理が煩雑であった。より安定した染色結果を得て適切な精度管理を実施するために、品質の安定した市販品を採用し従来の染色液との比較検討を行ったので報告する。

【材料および方法】コントロール標本は胃、大腸、脾臓、皮膚、子宮の手術材料を用い、切片は 3 μ m の厚さで薄切したものを使用した。試薬は New ヘマトキシリンタイプ C/ピュア・エオシン（武藤化学株式会社）および 2 倍カラツ

ィヘマトキシリン/エオジン（サクラファインテックジャパン株式会社）を使用した。各染色液や分別・脱水における時間・濃度を種々の条件にて染色し、従来のものを基準とした染色性の評価およびプロトコールの検討を行った。

【結果および考察】当院で自家調整していた染色液と比較すると、Hx は染色強度に大きな差はなく核所見の観察に問題はなかったが、色調に違いが見られ施設の好みが反映されと考えられた。Eo は染色性が非常に強く短時間で染色されたが、当院では薄い色調が好まれるため従来の自家調整品と市販品との差が大きく現れる要因となった。これらの傾向を考慮して Hx は従来の色調と同様の市販品を使用し、Eo は分別とその後の脱水系列を調整することにより当院で好まれる色調の HE 染色のプロトコールを作成した。今後安定した染色性を継続するために染色液の交換時期についても検討が必要と考えられる。

連絡先：052-551-6121（内線：1439）